



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第一〇〇号〜

立春 りっしゅん

二月四日



## エコ参宮その1 エノキ

暮らしのぞき箱もおかげ様で今回で一〇〇回を迎えました。二十四節気も一年の節目の立春にあたり、気持ちも新たに近づいていきたいと存じます。

おかげ横丁の伊勢路裁苑さいえんでは、「エコ参宮」という催事を行っています。神社にお参りする参宮と、エコロジーのエコを組み合わせたもので、自然を観察しながら、お参りしようという取組です。案内役は伊勢の植物に詳しい伊勢市文化財調査会委員の岡與一よいちさん。第六回のエコ参宮に参加しました。

今回は別宮の月読宮の周辺。伊勢路裁苑からスタートしましたが、石燈籠が建ち並ぶ御幸道路ですぐ立ち止まりました。見上げるばかりの大きなエノキがあります。

「この木は『たたえの木』ということからエノキという名になりました」と岡さんの説明が始まりました。神様が天下る時、エノキの枝先に止まり、下界を見ていたとされることから、神の木と讃えるようになったのだといえます。エノキはニレ科の落葉高木。天に向かって枝を伸ばし、高さは三〇m近くにも達するため、街道沿いの一里塚などにも植えられました。夏には緑の葉が茂り、大きな木陰ができるエノキは、憩いの場でもありました。名の由来は枝が多い木だからとか、器具の柄えに適している材だから、またよく燃える木だからモエキを略してなど諸説ありますが、すっかり葉を落とした大木を見上げると、青空に向かって伸びる様は、まさに神様が目印に降りてきそうな雰囲気です。

エノキは実は伊勢神宮内宮の玄関口の宇治橋の橋脚にも使われています。神さまの大事な足元も支えていたのです。

文 千種清美

